

ペア学年による花植え活動

I 緒言

特別活動の異学年交流の一つとして、本校では「なかよし活動」がある。ペア学年を決めて、ゲームや貢献活動をすることで異学年での活動の良さを実感している。これまでは、自己紹介を兼ねた「なかよし」遊びや運動会前のグラウンド整備のために「石拾い」や「草取り」を行ってきた。

今回は、地方法務局から「人権の花運動」の依頼があり、校地内におけるプランター設置のスペースの都合を考慮し、2年と5年のペア学年で花植え活動を行うことにした。

II 法務省の取り組み

1 人権の花運動

(1) 人権の花運動は、法務省によれば、主に小学生を対象とした啓発活動で昭和57年から実施されている。花を協力して育てることで、命の尊さを実感し、やさしさと思いやりの心を体得することを目的としている。過去5年間の実施状況では、3000を越える団体で40000人程度の参加者がおこなってきた。

(2) 人権の花運動を支える方々

人権の花運動は地方法務局、人権擁護委員、市役所等多方面の関係者、関係機関が連携をして関わっている。花植え活動をする学校の決定から通知、花やプランターの注文の取りまとめ、発注、業者の手配、花植え当日のセレモニーでの挨拶、事後のまとめ等多岐に渡っている。

2 人権啓発活動

法務省では、17の人権啓発活動重点目標に関わる取組として人権の花運動の他にに行われている啓発活動の中から、児童生徒に関連のありそうな4つを紹介する。

(1) 人権週間（12月4日～12月10日）

人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたった画期的な世界人権宣言の採択日である12月10日を最終日とする1週間を人権週間と定め、全国的に人権啓発活動を特に強化して行っている。

(2) 人権教室

全国の人権擁護委員が中心となって主に小学生を対象に、人権問題について考える機会を作ることによって、相手への思いやりの心や生命の尊さを体得すること等を目的とした啓発活動である。

(3) 全国中学生人権作文コンテスト

中学生を対象に、日常の家庭生活や学校生活等の中で得た体験に基づく作文を買うことを通して、人権尊重の大切さや基本的人権の日会を深め、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として実施している。

(4) スポーツ組織と連携協力した人権啓発活動

フェアプレーの精神等をモットーとし、青少年層や地域社会において世代を超えた大きな影響力を有するJリーグ加盟チームを代表としたスポーツ組織と法務省が連携協力することにより、いじめの防止など主に子どもに関わり人権尊重思想を若年層に普及させるための事業である。本県のJ2リーグに所属しているサッカーチームも、試合会場での人権啓発運動ブースを設置し、啓発物品の配布を行ったり、横断幕の掲揚などを行ったりしたことで、全国人権擁護委員連合会から「人権擁護功労賞」を授与されたこともある。また、bリーグに所属するバスケットボールプロチーム、地域リーグのトップイーストリーグAに所属するラグビークラブチームも同様の人権啓発キャンペーンを実施している。

3 法務省の啓発活動重点目標～人権啓発キャッチコピー～

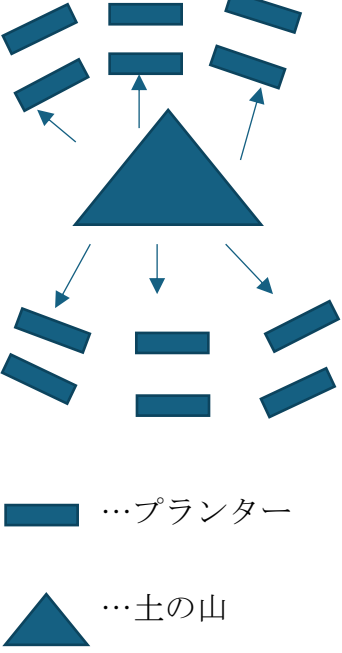
これまで紹介したように、法務省は、人権について多様な視点からアプローチをして課題を解決しようとしている。令和6年度の啓発活動重点目標は、「『誰か』のことじゃない。」と定め、子ども、障害のある人、外国人などに対する偏見や差別の解消に取り組んでいる。学校においても、自分以外の「誰かのこと」「自分には関係ないこと」と捉えず、「自分のこと」として感じ、考えていく機会が必要だと考えられる。

Ⅲ 実際の活動（計画案）

実際の花植え活動をやるにあたっては、次のような事前活動、当日の活動、事後の振り返りと大きく分けて3つの活動を行った。特に、人権について人権擁護委員の方に「人は生まれながらに人権をもち大切にしなければならない」「お花も人も命のあるものを大切にしなければならない」とあいさつをいただくことで、目的意識をもって花植えを行うことができた。以下に活動の実際を示す。

1 事前準備

花植えの活動時間を短縮し、スムーズに行えるように5年生が事前活動を行い、準備する。（2日前1時間：学校裁量の時間）

事前活動	活動の留意点	備考
<p>1 プランターへ土を入れる。</p> <p>(1) 各班3つずつ</p> <p>(2) シャベルで自分の班の分の土を入れる。</p> <p>(3) 安全に配慮しながら、職員がスコップで土入れを支援する。</p> <p>(4) 畑から玄関前へプランターを移動する。</p> <p>2 実際の花植え活動と同様に整列する。</p> <p>(1) 2年生を迎える場所とプランターを置く場所を確保して整列する。</p> <p>(2) 進行の確認をする。</p>	<p>10班で活動することから、技能技師の方が、土の山を中心に放射状にプランターを設置していただいたことで効率よく準備ができた。</p> <p><設置の一部></p>  <p>■ …プランター</p> <p>▲ …土の山</p>	<p>今回は、肥料と土を混ぜた状態で業者さんが運んでいただき、ありがたかった。次回以降は、確認が必要。</p> <p>31個のプランターに土入れ、移動を行ったが、40人程度の学年で準備、片付け、リハーサルを行い、1時間程度で、丁度よく行えた。</p>

2 ペア学年での花植え活動

朝の時間を活用して2年生と5年生のなかよし活動の一つとして、花植え活動を行う。(25分間：朝の活動の時間)

花植え活動	活動の留意点	備考
<p>1 5年生が花植え活動の準備をする。</p> <p>(1) 各班3つずつプランターを設置</p> <p>(2) プランターに3つ花の苗を分ける。</p> <p>(3) 2年生の移動を玄関で出迎え自分の班に案内する。</p> <p>(4) 始めの言葉 人権擁護委員の方からあいさつ</p> <p>(5) 花植え</p> <p>(6) お礼の言葉</p> <p>(7) 終わりの言葉</p> <p>(8) プランターを設置する。</p> <p>(9) 手洗いをして教室に戻る</p>	<p>2年生が来た時に迷わないように、5年生が早めに来て整列、プランターの準備をしておく。</p> <p>班ごとの活動のため、班の代表が2年生を迎えに行く。</p> <p>ごあいさつをいただくことを、事前をお願いしておく。あいさつの時間もお伝えする。 (今回は3分)</p> <p>お礼の言葉は、環境委員が代表して行う。</p>	<p>玄関前で活動するが、児童の登校時間と重なるため、時間の設定に配慮が必要。</p> <p>土を手で触れない児童のために、シャベルを準備する。</p> <p>今後の水かけのためにじょうろを準備して、玄関前に設置しておく。</p> <p>進行については、担当の人権擁護委員の方と事前に打ち合わせをしておく。(次第、活動時間、駐車場のスペース確保、校長室での待機等)</p>

IV まとめ

今回、地域法務局から「人権の花運動」の依頼があり、校地内におけるプランター設置のスペースの都合を考慮し、2年と5年のペア学年で花植え活動を行った。

人権擁護委員の方にあいさつをしていただいたことで、「人権」という言葉がこどもなりに心の中に受け止められているようだった。

2年生の事後の感想文によれば、

「5年生のおねえさんが『植えるのじょうずだね』とってくれました」

「じんけんの花がきれいにさくように。まいにちお水をかけて、花もおともだちもだいじにしたいです」

と書き、優しい言葉を交わしたり、花も友達も同じく大事にしたいと考えたりすることができた。

また5年生の事後の作文によれば、

「やり方を教える立場だったが、2年生が素直に動いてくれた」

『きれいにさくといいな』と2年生が言うのを聞いて、きれいな花を届けてくれたみなさんにありがとうと伝えたくくなりました」

と書くなど、2年生との触れ合いに喜び、花をいただいたことに感謝している様子が伺えた。

今後も、ペア学年で力を合わせて取り組める活動を考え、交流する楽しさや思いやる心を育てていきたい。

<参考・引用文献>

秋田魁新報電子版 (sakigake.jp) 人権SOSレター、小中に配布 法務省
<https://www.sakigake.jp/news/article/20240524C00034>

法務省 (2024. 4) 『人権の花運動』の取り組み【令和5年度】佐久市ホームページ city.saku.nagano.jp

法務省 (2024. 4) 「人権の花運動」 (moj.go.jp)

法務省 (2024. 4 「人権の花」運動実施要領 (益田) (moj.go.jp)

全国中学生人権作文コンテスト Inokashira_lib_citation.pdf (kyorin-u.ac.jp) ead92454.pdf (tokyo-shoseki.co.jp)